

今後の産科・分娩のあり方について（案）

令和元年9月28日（土）資料

①市立産科診療所

産科医1名以上必ず必要

助産師・看護師合わせて8名以上必要（助産師最低5名）

周辺の2次・3次周産期医療施設との連携必要

②市立母子健康センター・助産所

助産師が主体となって運営する施設

助産師最低でも8名以上+看護師4名ほど必要

経験のある助産師が必要（アドバンス助産師など）

提携した産科医が定期的に節目の妊婦健診担当（検査が必要な週数など）

緊急時の相談・対応をしてもらえる嘱託医・嘱託医療機関との契約が必要

正常妊娠・正常分娩しか対応できない（対応できる範囲が限られている）

↓

周辺の2次・3次周産期施設、小児科との連携が必要

③オープンシステムを採用したバースセンター

助産師が主体となって運営する施設

助産師最低でも8名以上+看護師4名ほど必要

経験のある助産師が必要（アドバンス助産師など）

妊婦健診は嘱託産科医とバースセンター助産師が担当

出産はオープンシステム契約を交わした近隣の医療機関で行う

出産の際は可能な限り担当助産師が立ち会う

出産後8～24時間で異常がなければ母子ともにバースセンターへ戻って入院することも可能

④ささやま医療センターを有効活用

ささやま医療センターの産科の施設と医療機器など借用か買取り、施設内の一角を活用できないか（バースセンター・みんなの保健室への活用）

⑤丹波篠山市の産後ケアセンター設立 助産師外来

妊婦健診はささやま医療センターで実施、出産は他施設で、入院期間を産後の体調が安定するまでの2~3日として、以後を丹波篠山市の産後ケアセンターで産後5~6日まで入所ケアを実施する

助産師・看護師スタッフ確保必要（ささやま医療センターに依頼？）

⑥補助金の見直し

兵庫医大への補助金を今後の協議で見直し、新しい出産施設やタマル産婦人科へサポートする資金にする

⑦病院誘致・民間募集

産婦人科病院を開業したいと考えている方を民間募集、病院誘致、市は土地の提供などお手伝いする。古民家の活用

⑧ささやま医療センターの継続要望

休止時期の延長や医師募集

⑨お産タクシー・バースサポートカー・ママサポートタクシー

陣痛がきたときや健診のときに病院まで送迎してくれるタクシー。産後はキッズタクシーとして産後の健診・赤ちゃんの健診にも利用できる。

⑩子育て環境の充実

安心して出産できる環境づくり、地域のつながりサポートの強化
若い時からの教育、プレママ教育 子育て世代へのサービスの強化

⑪医師の負担軽減

産科と婦人科を分けて医師の負担軽減により分娩の継続を図る。

⑫女性の声をたくさん聞いて取り入れてほしい